

令和7年度 第4回 京田辺市社会教育委員会
会議要旨

1 開会

2 委員長あいさつ

3 議題

(1) 活動報告

京都府社会教育研究大会の報告を出席委員が行った。

京田辺市複合型公共施設検討懇話会の報告を田中委員長が行った。

【各委員からの意見等】

(委員) 会議室が大小1室で足りるのか。

(委員) 考古資料室はあるのか。京都市でも資料が多いので分散して置いていた。

(委員) 以前、来館者が見られる場所に陳列するとしていた。

(委員) 複合型公共施設に考古資料室を置く場合は、都市みらい課に今意見を出さないといけないが、中央公民館や中央図書館跡地に置く場合は市民部が窓口ではないか。複合型公共施設に置く資料は市民にアピールするもの。委員が期待する資料室ではない。

(委員) 油絵サークル等公民館サークルは今も場所がなく、中央公民館が借りられなければ住民センターを借りて活動している。住民センターも借りられなければ、活動を中止している。会議室が少なければ、活動を辞めざるを得ないサークルも出てくる。今でもサークル活動をする部屋が不足している。今より部屋を確保して欲しい。

(委員) 会議室の数については、社会教育活動の発展のために考えて欲しい。

(2) 社会教育関係団体等事業補助金の見直しについて

資料に基づき事務局が説明した。

【各委員からの意見等】

(委員) 第3条第2項に、「地域、学校、家庭等が連携」とあるが、3者全てが連携していないといけないのか。あいまいな表現なので明確にして欲しい。連携は必須なのか。地域との連携は必須なのか。学校と家庭の連携だと対象にならないのか。表現をぼかしておいた方が良いのか。

(委員) 今回の改正で、社会教育関係団体を増やしたいのか、減らしたいのか。改正の目的は何か。

(事務局) 3者全てが連携していないといけないわけではない。表現については、事務局で再考する。改正に当たって、社会教育関係団体の範囲を広げ、地域の活動を支援していきたい。今まであいまいだった認定基準を明確にしたい。

(委員) 社会教育委員会議での審議を廃止したいのか。

(委員) 社会教育関係団体認定のメリットは何か。

(事務局) 補助金支給に対して、社会教育委員会議で審議していただく。現在のメリットは補助金のみ。社会教育関係団体をホームページ等で広報していきたい。市民に広く周知していきたい。

(委員) 社会教育関係団体の活動を広め、積極的にして欲しい。活動を広め、補助金の予算を上げて欲しい。活動していない団体は活動していけるよう働きかけて欲しい。

(委員) 事業を行うときに補助金申請を行うのか。

(事務局) 今は年間の活動に対して支払っているの、事業に対して支払っているのではない。

(委員) 公民館サークルも10人いれば社会教育関係団体に該当するのか。

(事務局) 地域全体に生涯学習事業をしていることが要件になるため、公民館サークルは対象外と思われる。

(委員) 清掃して公民館に集まりお茶を飲んで帰る団体も申請すれば対象になるのか。家にこもっている人を連れ出すような活動をするサークルも補助金が出るのか。補助金があることを周知すれば活動してくれる。補助金があることによってその活動が活性化する。

(事務局) 今後は、広報やホームページで広く募集していく。委員のお話に対する補助金は、地域の居場所づくり補助金になる。

(委員) 第2条の定義について、分かりにくい。法律は読んでも意味が分からない。定義をしっかりと、誰でも対象団体かどうかわかるようにした方がよい。

(事務局) 事務局で表現を検討する。

(委員) どんな内容かしっかり広報しないと混乱が起きる。補助金が出るなら、類似の活動をしていたら対象になると認識される。きちんと定義して発信しないとイケない。

(事務局) 広報するに当たっては、一般の人が見ても分かるよう例示等していきたい。

(委員) 定義はこれで良いが、広報は分かりやすくして欲しい。

(委員) 補助金を広報することで、問い合わせのあった団体が対象外でも、他の補助金を案内する等すれば良い。補助金をどんどん利用できるようにして欲しい。

- (2) 京田辺市の社会教育について
資料3に基づき事務局が説明した。

【各委員からの意見等】

(委員) 2ページのK D S Cとヒューマンカレッジの参加人数について、「人口の0.8%程度です。」で終わると否定的に感じる。その後の文章は肯定的に記載されている。「0.8%で好評でした。」「0.8%でしたが、好評でした。」等の表現の方が肯定的ではないか。0.8%なら連携をやめた方がよいのではないかととらえられかねない。

(委員) 連携しているというけれど、実際に連携しているのは0.8%なので、もっと広く市民に交流して欲しいと思う。「現状は0.8%程度しかいないので、今後はさらに連携していきたい。」等の表現のほうが分かりやすい。多いとか少ないとかの表現をするのは難しい。

(委員) 0.8%と記載しないとイケないのか。

(委員) 前回、既に連携しているのにまだ連携しないとイケないのかという意見があったので、連携しているのは市民の一部だと分かる表現だと工夫されている。

(委員) 前回より表現が分かりやすくなった。

(委員) 2ページ目の213人と382人は延べ人数なのか。正確な人数が必要でなくおおよその人数でよいのではないか。この文書を今後どうするのか。

(事務局) ヒューマンカレッジの受講者数は市民の申込者数で、K D S C の参加人数は教室の参加人数の合計数。この文書は、社会教育委員会議から教育委員会に提出の後、教育委員会内で検討して同志社に渡す予定をしている。市長から学長に渡すことは想定していない。

(委員) 同志社大学と同志社女子大学に向けて書いた文章だが、両方の大学に提出するのか。それぞれ別に提出するのか。

(事務局) お渡しするのは同志社大学を想定していた。教育委員会内で検討する。

(委員) 同志社女子大とはあまり連携していないのではないのか。

(事務局) 教育実習等で同志社女子大と連携している。

(委員) 同志社女子大学もゼミや地域活動に携わってもらっている。両方に提出すべきではないか。

(委員) 2 ページに同志社女子大学との連携も入れて欲しい。

(事務局) 代表的な連携内容を取り入れる。

資料 4 に基づき事務局が説明した。

【各委員からの意見等】

(委員) 10 ページの②社会体育協会をスポーツ協会に修正して欲しい。

(事務局) 修正する。

(委員) 会議で協議して終わるのではなく、資料として協議内容が残るのは良い。来年度以降の協議の参考としていきたい。

(委員) 学校と社会教育の連携についての教育委員の考えが一向に分からない。教育委員が社会教育委員の位置付けを分かっているのか。以前から教育委員と懇談したいと言っている。どうなっているのか。これから学校教育と連携していくべきだが、社会教育委員の提言を教育委員がどう思っているのか直接聞きたい。

(事務局) 昨年度の経緯は詳しく聞いていないが、話をまとめどのような形で教育委員と懇談ができるのか整理をしてから進めたいと思っている。

(委員) 2 ページの②地域コーディネーターを発掘し、育てることの中の「地域と学校や地域住民同士をつなぐ」について、何と何をつなぐのか。地域には学校もあるし住民もいる。3 ページ目の③「地域住民同士のつながり強化」については学校を核とする地域づくりの推進をしていくべきとしているが、地域のつながりは公民館活動や文化スポーツ活動で学校を核としなくてもつながりづくりはできるし、そうあるべきだと思う。

1 ページと 2 ページ以降の重点課題の表現と順番を統一したほうが良い。

(事務局) 表現と順番は合わせる。「地域と学校や地域住民同士をつなぐ」についても、皆に分かる表現になるようにする。学校を核とするという表現も、再考する。

(委員) 重点課題の順番について一番が一番大切なこと。一番大切なのは地域住民同士のつながり強化ではないか。

(委員) 同志社は最後でよいと思う。協議した内容ではコーディネーターが重要ということになった。地域住民同士のつながり強化はあまり協議できなかった。

(事務局) 同志社との連携が協議できたので一番にしたが、社会教育のことを考えたときにつながりづくりが大切だとも思う。順番は決めていただきたい。

(委員) 地域のつながりを強化するにはまずはつながりを作る人を見つけないといけないのではないか。コーディネーターの発掘が一番。次に地域住民のつながり強化が大切なので 2 番。同志社は地域住民以外ことなので、最後でよいのではないか。

- (委員) 5 ページ以下の資料も順番を合わせて欲しい。
- (委員) 4 ページの最後の「目指す社会教育に向けて」について、目指すものを明記して欲しい。
- (委員) 20 ページ以降について、ページの記載を修正して欲しい。
- (委員) 地域コーディネーターは小学校区単位と決まっているのか。自治会単位でもよいのではないかな。
- (委員) 自治会単位だと難しいので、小学校区単位ということになった。
- (委員) まちづくりとの関係もあるので、小学校区単位に限定するのは難しいのではないかな。
- (委員) 限定するのは難しい。
- (委員) 小学校区単位と記載すると自治会単位は除外するということになる。範囲を広げたほうが来年度協議するとき良いのではないかな。
- (委員) 旧村と新興住宅地は考えが違う。ぼかしておいた方が良いのではないかな。
- (委員) 事務局で偏った表現にならないよう工夫して欲しい。

4 その他

- (1) 同志社女子大学まちづくり委員会と地域住民との交流会の実施報告をした。
- (2) 生涯学習研修会の実施報告及び今後の実施予定の報告をした。

5 閉会 副委員長あいさつ